

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全項目でAまたはBの評価となり、概ね計画通りに教育活動が実施できた。 ・学力の向上に向けて更に授業の工夫と改善を行い、児童の思考力・表現力を伸ばしていく必要がある。また、児童が自己肯定感を高めるような取り組み、支援を全職員で行っていくことが重要である。特別支援教育に関する研修も引き続き実施し、全職員が特別支援教育的視点を持ち、業務改善、働き方改革については随分と進んできた。学校が本来担うべき事柄について更に精査し、地域や家庭との役割分担を進め、教員の負担軽減につなげたい。また、ブロック制やプロジェクト制を意識した「チーム大浦小」としての学校組織力の向上に努めていきたい。
---------------	--

2 学校教育目標	ひこぼえの心をもち、強く・かしく・美しく生きる子どもの育成を図る
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 確かな学力の向上のため、日々授業改善に取り組み、児童が主体的・対話的に学び、自信をもって表現する態度の育成を図る。 ② 自己肯定感や自己有用感をもち、人を思いやる豊かな心の育成及びふるさと大浦を誇りに思ふ心を育成するを図る。 ③ 粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にす体動の育成を図る。 ④ 働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実を図る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・職員アンケートでは、100%達成できており、成果指標を意識して取り組むことが浸透したといえる。 ・児童アンケートでは98%達成できていた。児童の学習に対する意識の向上や教師の授業改善の取組、今までの実践の積み重ねの成果だと考える。	A	・子ども達にとって、分かりやすい授業をしても、らっていることは大変喜ばしいことである。今後是非、研鑽を積まれて学力が上がるような授業を重ねていきたい。	学力向上PJ	
	○自信をもって表現する子どもの育成	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 vol.2」を踏まえ、全教科の授業で話し合う活動を設定する。 ・学期ごとに振り返りを行い授業改善に努める。	A	・児童アンケートでは、92%達成できており、中間評価より5%増加した。「話し合い活動」をする際、話し合う目的や意図を持たせて取り組んだことが、考えを比べたり、広げたりできたことの結果だと考える。継続して実践してきたことが児童の自信につながったといえる。この結果が自己肯定感の向上につながればよいと思う。	A	・ペアでの対話やグループでの話し合いなど人数での伝え合いは、みんなの前では発表できない子にとっては有効な手立てだと思ふ。また、考えを持っていても、うまく表現できない子どもにも先生方が寄り添って、意を汲んだり、考えを確認したりして下さっているの子ども達も安心できていると感じる。	学力向上PJ	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童85%以上	・人権集会やほかほかの木、道徳に関するアンケートに取り組む。 ・QUアンケートに関する校内研修を実施する。 ・学級活動で構成的グループエンカウンターに授業に取り組む。	A	・アンケート結果によると、肯定的な回答をした児童は88.4%で、前回より4.8%上昇した。人権集会やその後の学級での取り組みの成果が現れたと考える。 ・11月に実施したQUアンケートの結果を冬休みに職員研修で分析し、分析結果を3学期の学級経営に活かしている。	A	・「自己有用感」は、自分では気づきにくいものである。友達や先生、親から認められ、ほめられることで感じられるものである。先生方も1日に1回は、どの子にも声をかけるつもりで教育活動を行ってみたいと思ふ。	豊かな心PJ	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで、「まわりの人たちや、困っている人にやさしくしていますか」の項目で、肯定的な回答をした児童90%以上	・心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めると同時に事業発生の際はチームで迅速な対応を行う。 ・担任と児童一人一人と話す「教育相談週間」を設定し、児童の状況の把握と信頼関係の構築を行う。 ・毎週木曜日の子ども支援連絡会を通し、教師間の情報共有かつ指導の統一を図る。	A	・肯定的な回答をした児童が97.6%で、年間を通して目標を達成することができた。 ・教師間で連携を図りながら取り組むことができた。来年度も引き続き、同様の活動を継続し、自己肯定感を高められるようにしていきたい。	A	・いじめについてはアンテナを高く張って、早期発見・早期対応をしっかりと行っていると評価できる。今後も、多くの人の目で子ども達を見守ってほしい。	豊かな心PJ	
	○生活指導の徹底	○学校評価アンケートで、「あいさつ上手、片づけ上手、おぼなし上手」の項目で「よくできる」と答える児童80%以上	・毎月、クラスで生活目標のふり返りを行い、児童の意識の向上を図る。 ・全校朝会で生活の話をしたり日々の生活の中で良い行いをしている児童を見つけて褒めたりする。	A	・アンケート結果によると、達成率が94.2%と、前回よりも上昇した。全体的にみると、中間評価と同様に生活態度は落ち着いた。来年度も、引き続き同様の活動を継続していきたい。	A	・大きな問題行動なども起こらず、落ち着いた生活できている様子が分かる。引き続き指導をお願いしたい。	豊かな心PJ	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○ひこぼえがんばりカードで就寝時刻を守ることができると回答する児童90% ○アンケートで体力向上のために「休み時間には外に出て遊ぶ」と回答する児童80%以上 ○衛生検査で「朝ごはんを食べてきた」と回答する児童95%以上	・「ひこぼえがんばりカード」各担任が必ず目を通し、必要に応じて指導する。 ・外で遊ぶことの大切さや、スポーツチャレンジの取り組みなどで体を動かすことの楽しさを味合わせる。委員会の取り組みで声かけを行う。 ・栄養教諭と連携し、食育指導を各学年が年1回以上行う。	B	・「就寝時刻を守れている」児童は年間を通じて74%と低い結果となった。就寝時刻だけでなく、ゲームやPCの使用時間についても見直しさせたり、家庭に啓発する必要がある。 ・「休み時間の外遊び」については、中間評価より上昇したが、遊んでいると答えたのは76%で期待値に届かなかった。また、学年によって差があるので、担任による声かけやスポーツイベントの企画などを来年度も引き続き行いたい。 ・食育指導については栄養教諭と連携し、1～4年生までの学級で食育指導を行うことができたが、来年度は全学年で実施したい。また、学級活動だけでなく、家庭科で栄養教諭とTTで授業を行うことも有効であると思ふので、来年度は取り組みたい。	B	・就寝時刻とスマホ、ゲームの使用時間とは関係があるように思ふ。保護者の意識改革も含めて、今後、課題として取り組んでいくべき問題だと感じる。 ・朝食を食べないで来る子どもは少ないようだが、望ましい朝食の献立となっているかと言えば、少々課題があるようだ。	健やかな体PJ	
	○健康管理及び健康習慣の定着	○学校アンケートで、健康管理のために自分で意識して手洗いや換気を行なったと回答する児童90%以上	・感染症対策を含め、日常的に意識して行えるように、委員会や保健だより、保健室前の掲示板を活用して啓発活動を行ったり、担任と養護教諭がTTで保健指導を行ったりする。	A	・意識的に手洗いを行っている児童は95.5%と高く、寒い時期にも進んで手洗いに取り組むことができた。 ・換気については常時窓を開けているクラスがほとんどで、休み時間には委員会の呼びかけ、チェックがあったので、心がけることができた。	A	・本校が、コロナ感染やインフルエンザの流行などなく、学校行事も滞りなく実施できている点は素晴らしい。普段からの衛生面の指導が徹底しているからだろう。	健やかな体PJ	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・自分の勤務状況を確実に把握するために出勤退勤カードの管理を確実に行うとともに、毎日予定ボードに必ず退勤予定時刻を明記し、実行する。 ・資料の事前配布やICTの活用により会議をスリム化し、会議の回数や時間を減らす。 ・毎週金曜日を定時退勤日として設定し確実に守るようにする。	B	・各自が勤務時間、勤務内容を把握して、超過勤務を減らそうとする努力が見られた。中間評価よりも良い回答をした職員が増え、超過勤務45時間以下を実行できた全員が回答できた。下期は平均の超過勤務時間は30時間前後であり、上期よりも減ってきている。今後も、ICT活用や会議のスリム化などに努めていきたい。	B	・毎朝、退勤時刻をボードに貼るのは有効な手立てだと思ふ。超過勤務が多かった先生方も、自分の勤務状況を見つめなおして、超過勤務を減らす努力をされていると思ふ。今後も、体調に気を付けて、できるだけ超過勤務の時間を減らすようしていきたい。地域が担うべきことについては協力していきたい。	校長・教頭	
	○学校組織力の向上 ・ブロック制による学年経営 ・プロジェクト制による校務運営 ・各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	○「プロジェクトやブロック制を意識した業務ができた」と答える教員90%以上 ○「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員90%以上	・ブロック主任、各部長は年間を通じて日常的に情報共有を行い、ブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるように進捗状況を把握する。 ・プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ・各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。	A	・全職員が「プロジェクトやブロック制を意識した業務ができた」、また「担当分野の内容改善を進んで行った」と答えた。中間評価より更に良い傾向であり、PJリーダーやブロック主任を中心としたチームでの取組が浸透している。今後も、いい雰囲気の中で業務に取り組めるようにしたい。	A	・先生方がチームとなって温かい雰囲気の中で仕事をされている様子が分かった。子ども達のためにも今後も、このような職員を作っていってほしい。	校長・教頭	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援の関する専門性や意識が向上したと答える教員85%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・子ども支援連絡会等で情報共有すると同時にケース会議を開催して個別の支援の対応を図る。	A	・毎週の子ども支援連絡会等で困り感のある児童を把握し、児童の状況に合わせた指導について、みんなで考えることができた。また、低学年だけでなく全学年に渡って支援が必要な学習に対して、支援員を計画的に配置をすることができた。	A	・一人一人の子ども達の心の中を見つめ理解しようと研修を深められていることは大変ありがたい。今後も、特別支援教育の視点を大切にしていきたい。	特別支援教育コーディネーター	
◎主体的・意欲的な態度の育成	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○自分の夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・授業では必ず振り返りの時間を設定する。	A	・「自分の夢や目標にむかってがんばろうとしている」と回答した児童は97.6%で学年間で大きな差異はなかった。下期に実施したひこぼえ学習発表会や校外学習、様々な体験活動などを通して学んだことが多く、それらの体験や学習から自分自身の成長を感じさせることができた。	A	・いろいろな学校行事において一生懸命取り組んだり、堂々と表現したりしている子どもの姿が見られ、素晴らしい。子どもが「楽しい」と感じることで学校生活の中で一番大切ではないかと思ふので、今後もそのような教育活動をお願いしたい。	全担任	

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目でA評価となり、計画した教育活動がほぼ実践できた。 ・学力の向上については、4年間続けてきた国語科の研究や個々の取組の成果が表れ、子ども達が自信を持って堂々と表現する姿が見られるようになった。また、他に対する優しさや思いやりの心を持つ子どもが増えてきた。自己肯定感や自己有用感については、更に高めていくような手立てをとっていく必要がある。家庭での時間の使い方、インターネットやスマートフォンの使用時間について保護者への啓蒙を含め手立てを取る必要がある。 ・業務改善、働き方改革は前年より前進した。地域や家庭との役割分担、会議のスリム化など、今後も、負担軽減できることはないか吟味し実践していきたい。 								